

多くのナカマが集い、協力し合う米川まつりと

滋賀県立大学、長浜バイオ大学、虎姫高等学校、まちなかの機関・団体・事業所など、多くのナカマが、

これからの米川・かわまちづくり！！

米川のこれからの知恵を絞り、チャレンジ。米川まつりを契機に、新たな米川・かわまちづくりの展開へ



●米川まつり 子どもも大人も楽しめます！米川を歩いて水環境の改善に！

○米川チャレンジプロジェクト 参加無料（一部有料）

- ① 米川を歩こう！ 米川を歩いて、ドリンクチケットとエコアクションポイントをもらおう！
- ② 曳山博物館で遊ぼう！ 紙芝居（米かしばあさんなど）や館内で曳山クイズや缶バッジづくりに挑戦！
- ③ サイエンスカフェ 長浜バイオ大学若手研究者らの指導で、スライムづくりや米川の生き物調査、顕微鏡下で微生物の観察体験
- ④ 雨庭ワークショップ 雨庭は、米川の救世主？雨庭のしくみを体験してみよう！
- ⑤ めだかすくい ポイをうまく使ってメダカすくいを極め、お家でも健康的に飼育！（300円／回）
- ⑥ ちゃれたこ 子どもたちのたこ焼き屋台へのチャレンジ（有料）
- ⑦ 米川喫茶店 川の上でゆったりドリンクタイム♪虎姫高校生による川と森の体験もできるよ！（有料）
- ⑧ かき氷屋さん かき氷をたべてクールダウン（有料）

◇協力団体 ①ティーエムエル株式会社 ②曳山博物館・長浜図書館 ③未来生物学研究所(長浜バイオ大学) ④滋賀県立大学瀧研究室
株式会社成建 ⑤近江淡水生物研究所 ⑥株式会社crevus design ⑦長浜まちづくり株式会社・虎姫高等学校新聞部



とき 8月4日(日) 午後1～4時(雨天中止) ところ 曳山博物館自由広場周辺（米川も）

○米川チャレンジ遊び

滋賀県立大学の学生が企画し、運営する川遊びゲーム。まちなかの小学生に募集済です。

- ①湧水で藍染めを体験しよう！ ②米川ボートレースにチャレンジ！ ③知識と技のヨーヨー釣り！

【約束ごと】

- ◆ 熱中症など暑さ対策は十分に。気分がすぐれない場合は、早めにスタッフに。
- ◆ 川に入るときは、ライフジャケットの着用、水に濡れても大丈夫な服装、脱げない運動靴（サンダルやクロックスはアウト）が必須アイテム。低学年（1～3年生）の方は、保護者の方も一緒に。
- ◆ 会場付近には、駐車場はありません。自転車は、近くの金屋公園の指定場所に。
- ◆ まつりでの事故等については、加入する保険の範囲内とし、事故等への責任を負いかねます。参加者・保護者自身の責任の下、安全に心がけてください。
- ◆ 会場内には飲料物の販売はありません。水筒やタオルも忘れないように。
- ◆ 雨天時は中止となります。当地連ホームページ等でお知らせします。

●これからの米川・かわまちづくり

1 ナカマを増やし、“キセキ”の米川でかわまちづくり！！

最近では、米川や周辺の景観などの良さを見直し、保全・活用を進める動きが出ています。当地連も、治水対策とともに、5年前から、多くのナカマと米川の可能性を共有し、そこに、まちなか特有の魅力（町衆、歴史文化）を掛け合わせ、地域の誇りづくり顔づくり、水辺空間を活かした地域活性化に取り組んでいます。

- ①米川への関心を高めよう ②米川を美しく、再生しよう
③米川の生き物や水環境をもっと知ろう ④米川で遊ぼう
⑤地域内外の新しいナカマと楽しもう の5つが基本方針です。



2 治水対策が重要。遊水地整備などの対策へと。一方、雨庭の提案も！

米川は、たびたび氾濫し、多くの住家が浸水したことも。こうした状況の中、地元が丸となって、毎年、県と市へ米川の治水対策を強く要望。米川への簡易止水パネルの設置から堆積土砂のしゅんせつ、さらに、流量を減らす対策として、溢水を一時的に貯留する遊水地の整備へと進んでいます。

一方で、多発する豪雨などによる都市型洪水が問題視されるなか、その減災対策として、自治体でも取り組まれるなど注目されている雨庭構想が提案されています。



（京都市情報館ホームページから）

3 米川に、ビワマスが再来??



「ここでのな、わしは子どもの時、窓からビワマスをつかんだんや」「川が汚れるのは家が汚れるようなもんなんや」というのが、米川の清掃活動のリーダーとして活躍されてきた片野喜代士さん（故人）の言葉です。（「生活環境主義でいこう！ 岩波ジュニア新書」から）

最近では、アユをはじめ、コイやフナが琵琶湖から遡上するのが見られます。卵を産みにきてくれているんでしょうね。片野さんの時代の川に戻れませんが、何か工夫をすれば、ビワマスをいっぱい見ることができるかもしれません。そのためには、米川のことをもっと知る必要がありますね。

4 子どものプレイパークをつくろう！！



米川の流水には湧水が。水質調査では、米川は十分にキレイとの報告。

それならばと、まずは、あちこちで集めたペットボトルで、10隻の川床（ペットボトル製いかだ）を製作。曳山博物館広場から、4隻が就航。子どもたちは、大人に見守られるなか、危なげに川床に立ったり、川に落ちこちたり、ずぶぬれになったり。しかし、大人も子どもも、みんな笑顔いっぱい。米川は、子どものプレイパークになりつつあります。

5 バープ工を体験しよう！



米川フォーラムで、専門家から、鮎の産卵場、ホタルの繁殖場だけでなく、治水対策としても機能を発揮する「バープ工」という仕掛けの提案。早速、ナカマを募って、どんどん橋付近で、試験的に実施。流速が増えて土砂が洗い流される一方で、水が滞留する場所ができるなど、その効果が期待できるものでした。

しかし、河川管理上、長い期間の設置が難しいことから、これからも知恵を絞り、創意工夫を凝らして、安全なチャレンジへと！